

ランゲージシャワー

Language Shower

Language Shower ランゲージシャワー

2015 年度活動報告書

学生スタッフ構成

ファシリテーター 近藤貴文 (工学研究科)
言語サポーター ODHIAMBO Peterson Owino (国際言語センター)

ランゲージシャワーについて

プログラムとしての背景：

外国語でのコミュニケーションに「自信がない」、「自分にはレベルが高すぎる」と感じ、国際交流プログラム、外国語で開講されるプログラムへの参加に踏み込めない人がある。また、第二外国語として勉強してきた人や、留学を経験した人が習得した言語をもっと使いたいと、その機会を探している場合もある。そのため、誰もが気軽に参加でき、“間違っても良いから、とにかく外国語で聞き、話し、ディスカッションする”場を提供できないかと、2007年度に留学生センター（現国際教育交流センター）ワークショップの“世界の言語・文化を学ぶ”において、外国語を使って楽しむセッションが開催された。2008年度から、引き続き同ワークショップの一環として提供されているが、プログラム名を「ランゲージシャワー」とし、学生が主体でセッション企画、運営及び実施を行うものとなった。

特徴：

参加者を、使いたい同じ言語で小人数（4～5名以下）のグループに分け、出来るだけその言語だけを使ってゲームに挑戦したり、身近で話しやすいテーマで会話を楽しんだりする。各グループには、会話を盛り上げるなど、コミュニケーションを助ける役割の学生ファシリテーターが1名以上加わる。

学生ファシリテーターは、プログラムの企画、運営、実施を行なうが、各言語レ

ベルは問わず、参加者と一緒に言語を練習しながらコミュニケーションを楽しむことができる。また、グループでの役割だけでなく、セッション全体の司会・進行にも挑戦できる。

一般参加者には、使いたい言語の基礎知識を有していることが条件となっている。セッションは、参加者の言語レベルにもよるが、主に「中級に達しないレベルの人が挑戦できる」内容のものを用意し、中級レベルでの学習を終えている参加者には、他の参加者のコミュニケーションを助ける役割を担ってもらうことを期待している。

また、可能である限り、その言語を母語とする、あるいは得意とする学生をプログラムの「言語サポーター」として講師依頼し、分からない／間違っている単語や表現を直してもらう。

授業ではないので、リラックスして、間違っても良いから、発語を繰り返すことで自信をつけ、同じ言語でも、癖、使う言葉に違いがあることに気づき、それを楽しんでもらう。

2015年度の活動について

企画運営において活動者数が少ないこともあり、後期のみ、英語を練習する小さなグループを形成することを目指した。広報は、個別にプログラムへ問合せのあった学生や、国際交流に興味のある学生が登録できるプログラムのメーリングリスト内でのみおこなった。

★活動日時

11月9日 14:45-16:15 国際棟 #206N (参加人数 8名)
トライアルセッション What is Language Shower?

11月16日 14:45-16:15 国際棟 #301 (参加人数 5名)

11月30日 14:45-16:15 国際棟 #301 (参加人数 3名)

12月7日 14:45-16:15 国際棟 #301 (参加人数 4名)

★活動内容

最初はトライアルセッションとして、ゲームを取り入れた自己紹介を行い、

2回目以降は、自然発生的な話題について意見交換したり、自身が好きな有名人の紹介をするなどした。

★学生スタッフ（活動者）の感想、要望

様々なゲームを通して、楽しみながら英語を話すことができ、とても楽しかった。言葉は相手に自分の考えや思いを伝えるものなので、相手を思いやって言葉や話し方を選ぶことが大切だということを感じた。少人数だったので和やかな雰囲気ですぐ活動できて良かった。ぜひもっとたくさんの人にも参加してもらいたい。

The Language shower was a very interesting opportunity for me to meet other students and just talk in English without worrying about anything. I got to learn some Japanese words as well and made very good friends. My favorite meeting was when we made presentations about the famous people we liked. I really learnt a lot from the experience.

ランゲージシャワーのような、英語力に自信のない人でも参加しやすいような活動は必要だと思う。英語がある程度話せるようになれば、学内の他の活動（例えば English College の Lunch English Discussion）にどんどん参加していくと思うが、ランゲージシャワーのような、その入口になるようなものがあるといいと思う。もう少し回数が増えれば、半期でも話せるようになったと実感するくらい英語力が伸びると思う。

留学生の中にも、日本語や英語をもっと使う機会が欲しい、いろいろな人と交流したいという人が多くいると思う。例えば2時間のうち前半は英語、後半は日本語で行うランゲージシャワーがあると、日本人も留学生もお互い言語を学び、教え合うことができると思う。ランゲージシャワーや Lunch English Discussion は留学生が少なく、日本語 cafe は日本人が少ないようなので、日本語を学びたい人も英語を学びたい人にとっていい活動になるかと思う。また、言語教育に興味のある学生や教員にサポーターをしてもらえると良いと思う。自身の在学中に立ち上げてみたかった・・・。

★次年度以降の活動について（プログラムコーディネーターによる付記）

外国語習得を希望する学生は多く、学内において学生個々の活動や、図書館、部

局のコーディネートによる言語プログラムが展開されている。ランゲージシャワーは、それらの入口としてのプログラムと位置付けている。

しかしながら言語プログラムとしての企画・運営の難しさや、人的資源不足は否めない。2016年度は従来の学生活動はいったん休止するが、国際教育交流センターの“世界の言語・文化を学ぶ”セッションの一つとして提供の可能性を残しながら、学生による自主的な企画、運営再開を期待し検討していきたい。